

登別市中央地区まちづくり協議会 第2回学生委員会 議事録

開催概要

日時 令和5年2月27日(月) 登別市役所 2階 第1委員会室
17:00~18:00 登別青嶺高等学校・登別明日中等教育学校
18:30~19:30 日本工学院北海道専門学校

出席者 登別明日中等教育学校 : 八木澤 嘉紀、會田 姫暖、佐藤 杏花音、
太田 稔(引率教諭)
登別青嶺高等学校 : 安藤 暖、佐藤 大和、梅木 眞緒、
小木 理絵(引率教諭)
日本工学院北海道専門学校 : 佐藤 良祐、赤坂 貴将、吉野 匠(引率教諭)
事務局(総務部本庁舎整備推進グループ)
: 篠原 知紀、松田 大輔、大内 拓海

議事内容

1 開会

事務局(総務部本庁舎整備推進グループ)が進行

2 中央地区のまちづくりについて

- ・別紙資料により事務局から説明
- ・参加した委員間で中央地区のまちづくりに関するキーワードやコンセプトを協議した。

【参加した委員からの主な発言】

- ・幅広いジャンルの店舗が中央地区にあると地区内を周遊する人が増えるのでは。
- ・大人と子どもと一緒に参加できるイベントを開催すれば、中央地区が賑わうのでは。
- ・20代の人が集まるようなまちづくりを進めてはどうか。
- ・アニメは世界的にも根強い人気があるので、アニメやゲームのキャラクターとコラボレーションすれば、多くの人を訪れるのでは。
- ・アイドルとのコラボレーションを企画すれば、熱狂的なファンが多数訪れるのでは。
- ・近隣自治体にはない店舗を誘致すれば、まちに賑わいが出るのでは。
- ・eスポーツイベントを開催できる施設を作れば、多くの人を訪れるのでは。
- ・足湯を楽しめる飲食店など、中央地区でも温泉を楽しめる場所を作ってはどうか。
- ・登別温泉には温泉好きの人が多数訪れていると思うので、中央地区に温泉好きが集まる施設をつくと人が訪れるのではないか。
- ・中央地区とは関係ないかもしれないが、倶多楽湖を観光資源として活用したほうが良いのではないか。

- ・中央地区にユニークな自動販売機を多く設置すれば、市内外から人が集まるのでは。
- ・JRやバスの待ち時間があるときは、アーニスを利用するので、学生が滞在できるようなスペースをつくってほしい。
- ・勉強するときは自宅ですることが多いが、図書館が新しくなれば利用したい。
- ・どの世代にも必要とされる複合型の商業施設があると良い。
- ・K-POPが人気なので、関連したショップがあると良い
- ・登別温泉で実施しているイベント（鬼花火など）を登別温泉以外でも開催すれば、人が集まるのではないか。
- ・伝統芸能の熊舞や和太鼓を練習や発表する場所（防音装置付き）があれば、伝統を守りながら、バンド練習などで人が集まるのではないか。
- ・安心して子供を遊ばせることができる場所ができると、親子連れで遊びに来るのでは。
- ・登別は航路（苫小牧）も空路（千歳空港）でも利便性があるので、そこをもっとアピールすると移住者が増えるのでは。登別への移住者が街に賑わいをもたらす人材になるかもしれない。
- ・「地域住民や子どもたちとの交流」、「学生同士の交流」など、人をつなぐ場所があればいい。
- ・幌別1号公園は、すべり台に登ると海が見える。既存の施設を見方を変えて活用することで人が集まるのかもしれない。
- ・娯楽施設は室蘭と競合するので、勉強できる場所があったほうがいいのでは。
- ・中央地区全体でWi-Fiが利用できれば、独自色が出るのでは。
- ・登別は田舎過ぎず、都会過ぎず、「ちょうどいいまち」だと思う。そこに何かがプラスされれば、定住者も増えるし、まちに賑わいが出るのでは。
- ・登別市には専門学校があり、何百人もの生徒が通っているが、中央地区に若い人が歩いていることが少ない。専門学校に通っている学生が歩きたくなるまちづくりを進めることが重要と考える。

3 その他

（事務局より説明）

- （1）今年度の学生委員会は今回で終了となる。
- （2）本日出た意見は、協議会やワーキンググループで報告させてもらう。
- （3）来年度は予め日程を示し、全員が集まって協議できる場をつくりたい。
日程については、各学校の担当教諭と協議したい。

以上